

公立大学法人神奈川県立保健福祉大学
令和元年度 業務実績評価書

令和2年9月

神奈川県公立大学法人
神奈川県立保健福祉大学評価委員会

神奈川県公立大学法人神奈川県立保健福祉大学評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第78条の2に基づき、次のとおり公立大学法人神奈川県立保健福祉大学（以下「保健福祉大学」という。）の令和元年度の業務実績に関する評価を実施した。

1 年度評価の基本方針

業務実績に関する評価は、「公立大学法人神奈川県立保健福祉大学の各事業年度の業務の実績に関する評価の実施基準」（平成30年9月20日決定）に基づき、次のとおり行う。

(1) 基本方針

- ア 中期目標の達成に向けて、法人の中期計画の事業の進捗状況を評定する。
- イ 県民への説明責任の観点から、評価を通じて、中期目標の達成状況や業務の実施状況を分かりやすく示す。
- ウ 法人の組織・業務運営等に関して改善すべき点を明らかにすることにより、法人運営の質的向上に資する。

(2) 評価区分

年度評価に当たっては、法人から提出された業務実績報告書等を基に、法人からのヒアリングを実施するなど調査・分析のうえ、業務の実績の全体について検証を行う。業務実績の検証は、年度計画に記載されている各項目の事業の進捗状況及び成果等について、できる限り客観的なデータにより適正に行う。

ア 項目別評価（小項目評価）

評価委員会は、項目（小項目）ごとに、法人の自己評価及び年度計画の目標設定の妥当性などを総合的に検証し、法人の自己評価と同じ5段階の区分により評価する。評価委員会による評価と法人の自己評価が異なる場合は、評価委員会が評価の判断理由等を示すとともに、必要に応じて、特筆すべき点や改善すべき点等があればコメントを付す。

イ 項目別評価（大項目評価）

評価委員会は、項目（大項目）ごとに、業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、以下の5段階の区分により評価する。

- S：中期計画の達成に向けて特筆すべき優れた進捗状況にある。
- A：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
- B：中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。
- C：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。
- D：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

ウ 全体評価

評価委員会は、全体評価について、業務実績の検証や項目別評価の結果を踏まえ、法人の中期計画の進捗状況全体について総合的に判断し、記述式で評価をする。また、必要があるときは、法人に対して業務運営の改善その他の勧告をすることができる。

2 全体評価

令和元年度は、全体として中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

(項目別評価の結果)

- (1) 大項目 1 「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」
小項目28項目中28項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。
- (2) 大項目 2 「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」
小項目 3 項目中 3 項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。
- (3) 大項目 3 「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」
小項目 3 項目中 3 項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。
- (4) 大項目 4 「その他業務運営に関する重要な目標を達成するための措置」
小項目 4 項目中 4 項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。
- (5) 大項目 5 「自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置」
小項目 2 項目中 2 項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

全体評価	項目別評価				
	大項目	評価	小項目(評価基準)	項目数	
中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	1	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	0
				A(ほぼ100%実施)	28
				B(80%程度以上)	0
				C(60~80%未満)	0
				D(60%未満)	0
				項目数 計	28
	2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	0
				A(ほぼ100%実施)	3
				B(80%程度以上)	0
				C(60~80%未満)	0
				D(60%未満)	0
				項目数 計	3
	3	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	0
				A(ほぼ100%実施)	3
				B(80%程度以上)	0
				C(60~80%未満)	0
				D(60%未満)	0
				項目数 計	3
	4	その他業務運営に関する重要な目標を達成するための措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	0
				A(ほぼ100%実施)	4
B(80%程度以上)				0	
C(60~80%未満)				0	
D(60%未満)				0	
項目数 計				4	
5	自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	0	
			A(ほぼ100%実施)	2	
			B(80%程度以上)	0	
			C(60~80%未満)	0	
			D(60%未満)	0	
			項目数 計	2	

(業務実績の状況)

第一期中期計画の2年目である令和元年度は、昨年度に引き続き、ヒューマンサービスの理念に基づいて教育、研究及び地域貢献に励んだ。平成31年4月には保健、医療及び福祉分野における社会システムや技術の革新を起こすことができる人材を育成するため、新たな大学院である「ヘルスイノベーション研究科」を川崎・殿町に開設した。また、同研究科の取組みを活かし、シンクタンク機能を担う組織である「イノベーション政策研究センター」を設置した。これにより、横須賀、横浜(二俣川)、川崎(殿町)の3キャンパスが揃い、三位一体による法人運営を開始したところである。

3 大項目評価

(1) 大項目1「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価

(業務実績の状況)

就職希望者就職率(学部)について、進路ガイダンスと病院施設等説明会を実施するなどして多様な学生のニーズに合わせたキャリア支援を行い、99.6%と高い水準を維持した。

国家試験合格率については、学生のモチベーションを考慮したきめ細かな教育により、すべての資格*で全国平均合格率を上回っており、さらに合格者はそれぞれ専門職として就職者の4分の3が県内に就職している。

※ 看護師・保健師・助産師・管理栄養士・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・理学療法士・作業療法士

大学院保健福祉学研究科博士後期課程においては、次世代の教育者・研究者・高度実践者の育成に尽力し、初めての修了生(5名)を輩出した。

平成31年4月に開設したヘルスイノベーション研究科は、第一期生として17名を迎え、様々な分野の専門家からなる専任教員と最先端の外部講師により実践的な教育・研究を実施している。

研究の質の向上について、科学研究費補助金の申請件数が開学以来最多の51件であり、審査結果が判明している44件中、21件が採択された(採択率47.7%)。

社会貢献については、公開講座・市民大学開催回数が目標値の13回を大きく上回った35回となった。特に、イノベーション政策研究センターでは、県と連携した研修・講座のほか、他大学との連携によるセミナー等を行うなど、精力的に取り組みを進めた。さらに、産学官連携事業件数や海外大学等との交流事業件数も目標を大幅に達成し、ヘルスイノベーション研究科やイノベーション政策研究センターの創設によるシナジー効果が表れているといえる。

(評価結果と判断理由)

平成31年度(令和元年度)業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価(中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある)とする。

「教育に関する目標を達成するためとるべき措置」、「学生への支援に関する目標を達成するためとるべき措置」、「研究に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「社会貢献に関する目標を達成するためとるべき措置」の4つの面における取組をそれぞれ検証した。

小項目28項目のうち、28項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

(小項目評価の主な内容)

・年度計画を達成している主な事項 (A評価)

(小項目2～3) 看護師や保健師等、各国家試験における高い合格率を評価する。

(小項目8) ヘルスイノベーション研究科にて17名の多様な院生を受け入れ、国際的・実践的な教育研究を行っている点など、計画以上の成果を上げている。

(小項目16) クロスアポイントメント制度により4名の教員を採用し、多様性を広げたことを高く評価する。

(小項目18) FD(※)研修実施回数的大幅増を評価する。また、アンケート結果が良好であったことから、効果的なFDが行われたものと評価する。

※ FD(ファカルティ・ディベロップメント)とは

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称

(小項目23) 進路ガイダンス及び病院施設説明会の満足度の高さを評価する。

(小項目24) 学術論文、著書及びその他の著作件数的大幅増を評価する。

(小項目26) 公開講座・市民大学開催回数、高大連携プログラム等実施件数の増を評価する。

(小項目27) 産学官連携事業件数の増を評価する。

(小項目28) ヘルスイノベーション研究科やイノベーション政策研究センターを中心に活発な国際協働が進むなど、海外大学等との交流事業件数が大幅に増えたことを評価する。

(評価にあたっての意見、指摘等)

○ 高い就職率を評価する。きめの細かい指導など、小規模大学の強みを発揮している。また、卒業生が現場で歓迎されていることの現れである。(小項目1)

○ 博士後期課程の学位取得率100%は特筆すべき成果である。ランチオンミーティング等の手法で大学院生の意見を聴取し、それを踏まえカリキュラム改正をしたことを高く評価する。ただし、「ヒューマンサービス特論」と「ヒューマンサービス演習」を一つの科目として必修化したカリキュラム改正について、ヒューマンサービスに対する理解が深まったとの肯定的な評価が多くあったこと等、具体的な課題解決の内容について記述があるとよい。(小項目7)

○ 授業評価の実施率は100%を目指してほしい。(小項目10)

○ GPA(※)が一定の値を下回る学生に対する指導強化について評価する。(小項目13)

※ GPA(グレート・ポイント・アベレージ)とは

大学がそれぞれの成績評価ごとにGPを定め、学生個々の履修科目のGPにその科目の単位数を乗じ、その合計を履修科目の総単位数で除したものの。

保健福祉大学では、試験の成績が90点以上を4点、80点～89点を3点、70点～79点を2点、60点～69点を1点、59点以下(不合格)を0点として計算。学生表彰や助産師課程等の選考に活用している。

○ クロスアポイントメント制度のメリット・デメリットについて、今後、分析を進めてほしい。(小項目16)

- 決算報告書によると、人件費は予算比△206百万円となっており、内訳について説明があったが、このうち常勤職員4名が年度を通して充足できなかったことについて理由を明らかにしてもらいたい。(小項目16)
- 図書館の利用者数は、中期計画の数値目標として最終年度9万人を掲げており、途中で年度計画を引き下げることが適切ではなく、中期計画の変更の手続きが必要であると考え。(小項目17)
- 課題として、新型コロナウイルス感染症の影響による教育環境の整備について言及するべきであった。(小項目17)
- 保健福祉学研究科博士前期課程については、入試広報を強化しているものの、県内大学院との競争が激しくなっており、当研究科の特色をさらに強化することが必要である。このことについて課題として識別し記載すべきである。(小項目20)
- 実践教育センターにおける教育課程について、各コースの定員については適正数の検討が必要である。(小項目21)

(2) 大項目2「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価

(業務実績の状況)

クロスアポイントメント制度を活用し、他大学や医療機関の第一線で活躍する人材を教員に迎えた(令和元年度はヘルスイノベーション研究科にて3名に適用)。

(評価結果と判断理由)

平成31年度(令和元年度)業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価とする。

「運営体制の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」、「人事の適正化に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するためとるべき措置」の3つの面における取組をそれぞれ検証したところ、小項目3項目中3項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

(評価にあたっての意見、指摘等)

- クロスアポイントメント制度により最先端の知見等が講義等に反映された結果、教育・研究の充実が図られたことについて記載することが望ましい。(小項目30)
- クロスアポイントメント制度のメリット・デメリットについて、今後、分析を進めてほしい。(小項目30)
- 人事評価制度の運用について、次年度以降、丁寧な現状分析と、課題の明確化を期待する。(小項目30)

(3) 大項目3「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価

(業務実績の状況)

科学研究費助成事業の採択件数を増やすため、外部講師を招いたFDを実施した。

(評価結果と判断理由)

平成31年度（令和元年度）業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価とする。

「自己収入の増加に関する目標を達成するためとるべき措置」、「経費の抑制に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「資産の運用管理に関する目標を達成するためとるべき措置」の3つの面における取組をそれぞれ検証したところ、小項目3項目中3項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

(評価にあたっての意見、指摘等)

- 入学金及び授業料等収入の予算未達について、大学webサイト等で積極的に広報を実施していく旨を記載すべきである。（小項目32）
- 受託研究等収入及び寄附金収入が予算を16%上回ったことについて、外部研究資金獲得の実態把握を客観的に把握するため、業務実績として記載があるとよい。（小項目32）
- 外的要因による経費の減少とコスト削減の取り組みによる経費の減少を分析することで、取組みの効果や、翌年度に考慮すべき事項が明らかになるものとする。（小項目33）

(4) 大項目4「その他業務運営に関する重要な目標を達成するための措置」に関する評価

(業務実績の状況)

より多くの受験生を確保するため、新たに大学院保健福祉学研究所のパンフレットを作成した。

また、SNSを活用し、入試や地域貢献活動にかかる情報を発信し、即時性のある広報に取り組んだ。

(評価結果と判断理由)

平成31年度（令和元年度）業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価とする。

「施設設備の整備、活用等に関する目標を達成するためとるべき措置」、「安全管理に関する目標を達成するためとるべき措置」、「情報公開等の推進に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「社会的責任に関する目標を達成するためとるべき措置」の4つの面における取組をそれぞれ検証したところ、小項目4項目中4項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されてお

り、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

(評価にあたっての意見、指摘等)

なし

(5) 大項目5「自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価

(業務実績の状況)

自己評価審査会及び自己評価専門部会を設置し、年度計画の進捗状況を点検した。

(評価結果と判断理由)

平成31年度(令和元年度)業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価とする。

「自己点検及び評価の充実に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「自己点検及び評価の状況に関する情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置」の2つの面における取組をそれぞれ検証したところ、小項目2項目のうち2項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

(評価にあたっての意見、指摘等)

なし

4 評価委員会の概要

- (1) 令和2年度神奈川県公立大学法人神奈川県立保健福祉大学評価委員会委員
- | | | |
|------|--------|--------------------------|
| 委員長 | 長谷部 勇一 | (国立大学法人横浜国立大学学長) |
| 副委員長 | 平松 廣司 | (横須賀商工会議所会頭・かながわ信用金庫理事長) |
| 委員 | 鈴木 智子 | (公認会計士) |
| 委員 | 竹村 克二 | (公益社団法人神奈川県医師会副会長) |
| 委員 | 中村 行宏 | (株式会社テレビ神奈川 取締役相談役) |
| 委員 | 花井 恵子 | (公益社団法人神奈川県看護協会会長) |

(2) 評価委員会実施状況

- 第一回 令和2年7月13日(月) ※書面開催
 - ・業務実績評価について
 - ・財務諸表等に対する意見について
- 第二回 令和2年8月4日(火) ※テレビ会議
 - ・業務実績評価書(案)について
 - ・財務諸表等に対する意見書について